

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Number 9

日本獣医解剖学会報

January.1996

演題・演者の一覧表

オーセリングソフトを用いた獣医組織学教育用マルチメディアタイトルの制作

ミトコンドリアDNAの非コード領域からみた日本在来犬の遺伝的変異
 動物遺存体(犬骨)が語る日本在来犬の由来
 ラット精巣における細胞質ダイニンの局在の検討
 ウシ精巣におけるNOSの発現について
 ニワトリ精子発生におけるHSP70の発現
 マウス精細胞で発現するSox17遺伝子の機能解析
 マスト細胞系系間の系統差
 ニワトリ卵管におけるBリンパ球と形質細胞の孵化後発達
 Immunocytochemical Demonstration of Prolactin in Taenia hydatigena
 鶏腎臓のMarginal Nucleiにおける星状細胞の形態学的研究
 サル視神経のアストログリアによる視神経束パターンの形態学的解析
 ゴールデンハムスターの嗅球におけるレクチン結合様式の発生学的変化
 アフリカフメガエルにおける三系統の嗅覚投射路とそのレクチン結合性
 亜鉛欠乏ラットの嗅覚受容器におけるアポトーシス発現とレクチン結合性の変化について

ネコの脳における神経要素の免疫組織化学的研究
 ラット胃壁の迷走神経分布について
 マウス口蓋ヒダの形成過程における主要な細胞外基質の分布変化
 ウサギの動脈器複合体
 胎生期および出生直後のラットの肺に関する形態計測学的ならびに免疫組織化学的研究: EGF
 EGFR, PCNAの局在性について
 肝線維変性と肝細胞アポトーシスは慢性B型肝炎においては正相関する
 免疫性肝線維症ラット肝のレクチン組織化学
 シバヤギの微量金属の動態と肝、腎、脾臓の形態学的研究
 ニホンカモシカ前胃の形態
 共焦点レーザー顕微鏡を用いた胃壁細胞分泌能解析システムの開発
 フタコブラクダ(Camelmus dromedarius)十二指腸腺の形態学的研究
 ラット胎子群島A細胞に対する母体副腎除去の影響
 腸上皮の基底膜にはなぜ穴が開いているのか
 母体両側尿管結紮時の胎子腎臓の発達に関する免疫組織化学的研究
 正常マウスおよび先天性ネフローゼマウスにおける糸球体ラミニン分布の変化

中国小型豚の皮膚組織の性的二型性
 ラット・ケラチノサイト初代培養系におけるケラチン関連蛋白質の発現について
 ラットの生殖周期に伴う乳頭の組織学的観察
 泌乳期におけるウシ乳腺の形態学的変化
 ニワトリハーダー腺形質細胞の細胞動態に関する超微形態学的研究
 レッサーバンドの疑似指骨格
 福岡県産現生イノシシの骨に関する形態計測学的研究
 偶蹄類の緻密骨の比較組織学的研究
 PGE₂による動脈管の再開存とデキサメサゾンの影響
 動脈管の再開存に及ぼすマレイン酸エナラプリルの影響
 大脳動脈輪の比較形態学的研究
 エゾシカの脳の血管構築 - 脳への血流調節装置としての役割 -
 ニワトリ大動脈管内の上皮様細胞の孵化後発達に関する組織化学的研究
 サリノマイシン投与ラットにおける副腎髄質細胞の消長
 MSG投与矮小マウスにおけるGH投与後の視床下部-下垂体-性腺軸クロストーク

マウス血清タンパク/ヒト成長ホルモン融合遺伝子導入トランスジェニックマウスの視床下部
 のホルモンについて
 ニワトリ胚の下垂体の発生-免疫組織学による研究

玉木栄三郎(麻布大)
 奥村直彦(岩手大)
 石黒直隆(帯畜大)
 前田誠司(東大)
 本道栄一(帯畜大)
 恒川直樹(三菱化学生命研)
 金井正美(都臨床研)
 田中徹(長寿研)
 Khan(北大)
 劉波(長春農牧大)
 上原正人(鳥取大)
 内藤順平(名大)
 加藤美穂子(岩手大)
 齋藤正一郎(岩手大)
 北中千昭(岩手大)
 大森保成(名大)
 平野品久(宇都宮大)
 廣橋雅峰(日獣大)
 小倉東(日大)
 藤井賢一(大阪府大)
 眞鍋昇(京大農)
 宮本実(京大農)
 佐加良良治(九州歯大)
 山本欣郎(岐阜大)
 辻昌志(岩手大)
 竹花一成(酪農大)
 小松克(麻布大)
 岩永敏彦(北大)
 岡田利也(大阪府大)
 小倉淳郎(予研)
 和栗秀一(北里大)
 神山雅子(農工大)
 豊嶋靖(鹿児島大)
 小林中(酪農大)
 北川浩(鳥取大)
 福業智之(日獣大)
 松本充史(鹿児島大)
 森 隆一(昭和大学)
 滝沢達也(麻布大)
 川崎まり子(麻布大)
 後藤 正(酪農大)
 二宮博義(麻布大)
 石野弘基(北大)
 藤原真直(畜産安全研究所)
 松本由樹(大阪府大)
 佐々木文彦(大阪府大)
 堂下 歩(大阪府大)

獣医学雑誌や講演要旨集に
 ずれ詳しく発表されますが、次
 の獣医学会のうち獣医解剖学会
 に関係するものに限って念の為
 にお知らせします。
 ニュースレター18号(3頁)
 4月2日の午前中(9時)12
 時)は演題①②③、です。評議
 6会場です。
 既に掲載してあります。解剖学
 の演題とシンポジウムは全て第
 6会場です。

員の方は12時、13時に第10会場
 に出席して下さい。4月2日の
 午後にある「解剖学シンポジウ
 ム」ではアンケートの集計報告
 (次頁参照)と今後の具体的計
 画についての御相談があります。
 (13時/15時)
 つづいて16時30分から演題④
 がはじまり、17時50分に演題⑤
 で終ります。
 次の日の講演⑥は午後15時に
 はじまり、最終演題⑦が終了す
 るのは4月3日の17時です。
 解剖学会の集会はこの後同じ
 第6会場で行います。順調に
 にゆけば18時には終了しますの
 で、おつかれ様ですが御参加下
 さい。学生会員の方も勿論参加
 を歓迎します。
 念の為演題番号、発表者のう
 ち演者名とその所属、題名のり
 ストを左に挙げます。

第121回日本獣医学大会 (4月2日~4日)
麻布大学で開催 (事務局: 日本生物化学研究所)
 大会長: 倉益茂 (実)

組織学教科書発刊についてのアンケート設問

- 1) 獣医組織学の教科書を発行しますか?
 1. 発行する。 2. 発行する必要はない。
3. 発行する必要は認めないが時期早尚である。では、発行の時期は何時ですか (年) (発行の方向でしたら以下にの問いにご意見をお聞かせ下さい)
- 2) 作り方 (編、監修等) は?
 1. 可能な限り全構成委員の協力で、日本獣医解剖学会編として発行する。
 2. 日本獣医解剖学会獣医組織学編集委員会編で発行する。 3. 自由意志の参加者だけで作り、共著、監修○○として発行する。
- 3) 編集委員会を定めますか?
 1. 日本獣医解剖学会の役員 (会長、副会長) による。
 2. 国立、公立および私立の大学三つのグループからそれぞれ編集委員を出す。この場合の適切な人数を以下に記入下さい。 国立 名、公立 名、私立 名、その選出方法は? 各グループでどの選挙、学会役員に任ずる。
 - 4) 編集委員に獣医学科 (学部) 以外の方を含めるべきでしょうか?
 1. 含める必要はない。 2. 含めるべき。では具体的にどこまで記入下さい
 - 5) 編集委員に指名または選出されたら委員になってもらえますか?
 1. この仕事の意義を認め大変興味があるので、委員会には是非入りたい。
 2. この仕事の重さを認識するので指名または選出されれば委員として協力する。
 3. 事情があり委員会にまで協力は出来ないが、写真提出や標本作製には委員の義務として協力する。
 - 6) どの程度の内容にするか?
 1. Delmannを越えるオリジナルな教科書を時間がかかっても発行する。
 2. 基本的にDelmannの組織学の教科書をオリジナル写真で改善する方向で仕事を進め、発行する (勿論、版を重ねながら改善する)。
 3. カラー写真を主とし、それに各部の名称 (獣医組織学用語) を入れた実習書程度とする。
 - 7) 6) のどれにしても、写真に不足 (量、質) のものが在った時はどうしますか?
 1. 第一集は集めることが出来た範囲でスタートする (獣医以外からも集める予定)。
 2. 編集委員会の判断と指名が必要最小限の光学顕微鏡の標本は各教室が分担で作る。
 3. 2に追加で必要最小限のTEMとTEMの標本も上と同様に各教室が分担で作る。
 - 8) 分担の部、発行、組織等の決定はどうしたらよいでしょうか?
 1. 編集委員会に一任する。
 2. 希望のアンケートを取り、それを基に編集委員会が調整をし、分担を決定する。
 - 9) 8) の分担は講座等の組織単位でしょうか、個人単位でしょうか?
 1. 組織単位。 2. 個人単位。 3. 個人と組織の併用。
 - 10) もし、執筆を分担することになったとき、貴方 (女) または貴方の所属する教室ほどの部官、組織、細胞を分担できますか?
 1. 貴方 (女) または貴方の所属する教室で、現在、これなら写真として提供できる、というもの (部官、組織、細胞など) がありましたら、参考までに教えて下さい。
 - 12) 組織学用語の名称のつづき、英語表記はどうするか?
 1. 和名 (俗名) のみとする。 2. さらに漢語名だけはラテン語 (学名)、英名と漢名とを併記する。
 3. さらに編集委員会の判断で学名はラテン語 and/or 英名を付ける。
 4. 可能な限り、和名にラテン語と英名とを付ける。
 - 13) 対象動物の範囲は?
 1. ウシ、ウマ、ブタ、イヌ、ネコを中心にして、ニワトリを必要最小限加える (適当な標本が無い場合は小型実験動物の標本を用いる)。
 2. 小型実験動物を中心にして家畜と家畜とを最少限加える。
 3. 鳥類、両生類、魚類も 1, または 2, に必要最小限加える。具体例を挙げて下さい。(例: ○類の○○;)
 - 14) 鳥類の部官・組織は何が最小限必要か、具体的な部官・組織名を挙げて下さい。(部官名: ; 組織名:)
 - 15) 血管等の特殊標本は向が最小限必要か、具体例を挙げて下さい。(例: 腎臓の糸球体)
 - 16) 出来るだけカラー写真を多くしたいが、教師の負担はどの程度か妥当か?
 1. カラー写真を多くして2万円以内。 2. 1万円5千円以内で出来るだけカラー写真を多くする。
 3. カラーは少なくとも1万円以内。 4. 5千円前後で。
 - 17) フラッシュ処理の組織標本をどのように取り入れるか?
 1. 実習標本がほとんどパラフィン切片なので、特殊なものを除き出来るだけパラフィン切片で固定・染色のよいものをそろえる。
 2. より明確に理解させるために、出来るだけフラッシュ処理の組織標本でそろえる。
 3. フラッシュ処理の組織標本にこだわらず、現有のもので出来るだけ良いものをそろえる。
 - 18) 細胞学はどの程度取り入れるか?
 1. 出来るだけ詳しく取り入れる。 2. Delmann程度の簡単なものとする。 3. 取り入れない。
 - 19) 分子生物学などの程度取り入れるか?
 1. 出来るだけ詳しく取り入れる。 2. 最小限取り入れる。 3. 取り入れない。
 - 20) 方法論をどの程度取り入れるか?
 1. 出来るだけ詳しく取り入れる。 2. 最小限取り入れる。 3. 取り入れない。
 - 21) 光顕・電顕的免疫組織化学とin-situ hybridizationの写真をどの程度取り入れるか?
 1. 出来るだけ詳しく取り入れる。 2. 最小限取り入れる。 3. 取り入れない。
 - 22) 教科書に採用した写真や表の利用方法は?
 1. スライドにして各教室に配布する。 2. スライドのみならずCDに収録する。
 - 23) 各教室に印刷用図版を含めるべきでしょうか? 1. 含めない。 2. 含める。
 - 24) 各章末に引用文献や参考文献等を含めるべきでしょうか? 1. 含めない。 2. 含める。
 - 25) もし、この教科書が出来た時は、貴大学では教科書に採用していただけますか?
 1. 基本的に採用する。 2. 内容によっては採用する。どのような内容かを具体的に聞かせください。
 3. 採用できない。良かったらその理由をお聞かせください。
 - 26) その他、ご意見等がありましたら下の空白にお書きください。

株式会社学窓社 〒113 東京都文京区西片2-16-28 TEL 03-3818-8701 FAX 03-3818-8704	メルク	獣医マニユアル	新版獣医組織学	マウスの発生アトラス	家畜発生学	ラットの解剖図譜	兎の解剖図譜	組織と器官・走査電顕図譜	猫の解剖図説	猫の解剖学	新版犬の解剖学	犬の解剖アトラス	定評! 解剖シリーズ
	定価1990円 定価20600円	定価220600円 定価20600円	定価44500円 定価154500円	定価1133300円 定価1339900円	定価55000円 定価1339900円	定価226600円 定価226600円	定価1009900円 定価1009900円	定価154500円 定価154500円	定価44500円 定価1339900円	定価309000円 定価257000円	定価309000円 定価257000円	定価206000円 定価206000円	定価206000円 定価206000円

★訂正とお詫び
前号(8号)の氏名・所属の誤りは大変失礼しました。ここに訂正の上深くお詫び申し上げます。

一頁 西中川駿(慶大) ↓(鹿大)
二頁 学窓社広告中
望月好子 ↓望月公子
西片2-16-21-16
四頁 浅利 ↓浅利將男先生

学会役員は御辞退もありましたので改めて左表のようにしました。(順不同・敬省略)

会長 牧田登之(山大)
副会長 林良博(東大)
監事 山田純三(帯広大)
阿部光雄(酪農大)
和栗秀一(北里大)
理事(庶務) 月瀬 東(日大)
(会計) 九郎丸正道(東大)
有嶋和義(麻布大)
岩水敏彦(北大)
佐藤英明(東大)
鈴木義孝(岐阜大)
山野秀二(日獣大)
浅利将男(麻布大)
江口保暢(麻布大)
岡野真臣(日大)
渡辺 徹(名大)
木曾康郎(府立大)
醍醐正之(日獣大)
橋本善春(北大)
村上隆之(宮崎大)
谷口和之(岩手大)

平成7年度秋期学会議事録(案)

平成7年10月11日11時より11時半まで
於：鳥取県民文化会館

1. Newsletter No. 8 (Oct.1995)に基づき、第119回日本獣医学会(平成7年4月東大)で発足が決定した日本獣医解剖学会の獣医学会での承認と役員決定の経緯の説明が牧田会長からなされた。

2. 平成7年9月横浜で開催された世界獣医医学大会が成功裏に終わったことが会長より報告され、9月6日にWAVAの総会と役員選挙の開票の結果(会長にSmallwood(USA)が選出され、副会長(アジア地域)に東大の林教授が選出されたこと)などが報告された。牧田会長より、WAVA前副会長の西田隆雄教授のこれまでのご貢献に感謝の意が表された。

3. 本学会の発会を記念して加藤嘉太郎、保田幹男、望月公子、工藤宜夫の4先生に名誉会員証を贈呈したことが報告された。以後、これまでに功績のあった先生方に名誉会員証を贈呈していく予定。

4. 本学会が学会となったことで、機関誌の発行が必要となるので現在検討中との報告が会長からなされた。それに伴う資金面、継続性、内容を含めて多々論じられたが、継続検討課題として残された。

以上を持って閉会となった。

インド南部(デリーより空路約2時間半、鉄道で2日)のガーデン・シテイと呼ばれる高原にあるバンガロール市の農業科学大学の獣医学部学部長はインド獣医師会長で横濱の世界獣医大会に来日したDR R A H M A N)

バンガロール大学(インド) 獣医学部解剖学講座の紹介

と山口大学農学部と交流協定を結んだ。石造りの広い校舎①で電顕室②にはクーラーがあるものの、解剖研究室③や解剖実習室④には空調がなかった。



組織学では組織化学で胃腺を染色したりしているが、免疫組織化学をやりたいとか、クリオスタットが無いとか、という話は昔の山口大学を想わせる点があった。この地域に出来る機会があれば紹介の労をとります。



日本獣医解剖学会

名誉会員(第5号~第8号)の推挙

見上 晋一 先生 (元岩手大)
大塚 閏一 先生 (元鹿児島大)
山内 昭二 先生 (元大阪府大)
藤岡 俊健 先生 (元名古屋大)

先の第19回の学会で、加藤嘉太郎、保田幹男、望月公子、工藤宜夫、の四先生に名誉会員第一号~第四号になっていただきましたが、来る第20回の学会では更に上記の四先生に第五号~第八号の名譽会員になっていただくように推挙させていただきます。御紹介するまでもなく、本学会の前身である解剖分科会で、役員・用語委員として御活躍いただいた先生方で、日本獣

医学会名誉会員(70才以上)の基準を考慮しつつ選ばせていただきます。今後も、学会に積極的に御参加下さり、御指導と御助言をお願い致します。ささやかですが、前回同様(第8号ニューズレター参照)のエムブレムを贈呈します。なお次回より委員会を設置して基準なども決めて行う予定です。

国際家畜解剖用語(骨学)委員に橋本善春先生(北大)を推挙

国際用語委員会(会長チユールッヒ大学F R E W E I N教授)からの要請で、先に組織学(谷口和之先生)、発生学(山本雅子先生)の委員を推挙しました(前号参照)が、更に解剖用語委員として橋本善春先生(北大)を推挙しました。



日本獣医解剖学会会則

第1章 総則

第1条 (名称)

日本獣医解剖学会
(The Japanese Association Of Veterinary Anatomists) (以下「本会」という。)

本会とは、日本獣医学会定款施行細則第10章(第62条)第66条に基づき、学会所属団体として設置する。

第2条 (目的)

本会は、獣医解剖学およびその関連領域における学術研究の進歩と普及を図り、獣医解剖学の発展に寄与することを目的とする。

第3条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
- (2) 会報の発行
- (3) 研修、教育
- (4) 関係諸学会との情報交換および連絡
- (5) その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 (事務所)

本会の事務所を日本獣医解剖学会長の下に置く。

第5条 (会員の種別)

本会は、次の各号に掲げる会員より構成される。

- (1) 正会員 日本獣医学の発展に寄与する者
- (2) 賛助会員 本会に賛助する者
- (3) 学生会員 大学または大学院に在籍し、獣医学あるいは獣医学に關連のある学科を修める学生で、本会の目的に賛同する者
- (4) 名誉会員 本会の発展に功績があり、理事会において承認された者
- (5) 賛助員 本会に趣旨を賛同し、その事業を援助する個人または団体

第6条 (入退会)

本会に正会員、学生会員、賛助員または賛助員として入会しようとする者は、所定の入会申込書を会長に提出し、理事会の承認を受ける。

第7条 (会費)

正会員、学生会員、賛助員は、定められた会費を納入する。

第8条 (除名)

会員が次の各号の1に該当するときは、理事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

- (1) 会費を滞納したとき
- (2) 会則に違反したとき
- (3) 本会の名誉に傷つけ、あるいは本会の目的に反する行為があつたとき

第9条 (役員)

本会には、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以内
- (2) 監事 2名

第10条 (役員選出)

理事および監事は、評議員の中から選出する。

第11条 (役員任期)

理事の任期は3年とし、再任を妨げない。

第12条 (役員報酬)

役員は役員選挙のとき評議員とみなす。

第13条 (評議員)

本会に評議員若十名を置く。

第14条 (評議員選出)

評議員は、理事会の承認を得て正会員の中から、会長が委員を指名する。

第15条 (評議員任期)

評議員の任期は3年とし、再任を妨げない。

第16条 (評議員職務)

評議員は、評議員会を組織し、会長の諮問に応じて、本会の運営に関する重要事項を審議する。

第17条 (総会)

総会を毎年1回以上開催する。

第18条 (総会出席)

総会には、正会員の5分の1以上の出席および委任状の提出により成立し、出席者の過半数の賛成によって議決する。

第19条 (総会決議)

総会は次の事項を審議し、決定する。

- (1) 事業報告および決算
- (2) 事業計画および予算

第20条 (役員等選任)

役員等の選任および解任は、理事会の決議を経て、会長はこれを執行する。

第21条 (会費の決定)

会費の金額および徴収方法は、理事会の決議を経て、会長はこれを執行する。

第22条 (会費の変更)

会費の変更は、理事会の決議を経て、会長はこれを執行する。

第23条 (会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第24条 (会則の変更)

本会会則の変更には、理事会の議を経て、総会の議決を必要とする。

第25条 (雑則)

本会会則に定めらるるものほか、本会事務の運営に必要な細則は、理事会の議を経て、会長が別に定める。

第26条 (施行)

本会会則は、平成7年4月1日より施行する。

編集後記

会員の皆様、明けましておめでとございます。

昨年の後期は世界獣医学大会(横浜)及び第120回の獣医学(鳥取)でスケジューリングが混み、学会運営にも何かと行き届かない点が多くて申し訳ありませんでした。それにもかかわらず鳥取大学の皆様のおかげで楽しいパーティを開いていただくなど、学会のために暖かい協力を得て来たことをここに改めて御礼申し上げます。横浜大会に参加されたWAVAの会員とEVANS先生からいただいた御礼状をいただいております。

「学会」の当面の課題は、評議員を正式にきめておくこと、会費を設定すること、会誌の発行にメドをつけること、シンポジウムの今後をどうするかということなどです。

間もなくやって来る第121回学会では日本生物医学研究所の方々とおそろしく麻布大学の皆様にもお世話になりますが、どうかよろしく。年2回の学会は大変だから1回にしようかなどという話も獣医学会理事会で実は出ていますが今年もがんばりましよう。(編集子)